

令和6年度地方における孤独・孤立対策推進事業交付金 事業実施報告書

【事業内容】

●孤独・孤立対策関連事業の実施

③ 関係者間の活動等に係る情報共有や相互啓発活動

「とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォームワークショップ」

1. 事業の概要

以下のとおり標題ワークショップを開催。

日時 令和7年1月29日(水) 14:00-16:00 場所 倉吉交流プラザ視聴覚ホール

参加団体 24 団体

実施内容 孤独・孤立対策に関する県内実践者のトークセッション、支援分野(ピアサポート、居場所づくり、地域食堂、フリースクール)ごとに分かれ、プラットフォーム構成団体によるワークショップを実施

2. 事業実施の経緯・背景及び目的

県内の支援機関同士が一堂に会する場がこれまでなかったことから、類似の孤独・孤立対策を実施しているプラットフォーム構成団体の相互連携と協働を促進するため、支援団体間の関係構築・交流や行政との対話を目的として開催。

3. 事業の成果及び工夫した点

「note」などによる事前・事後の情報発信により、参加団体の幅広い募集を行ったほか、プラットフォーム構成団体相互の連携を促すという目的のため、本ワークショップ内での交流を促すための場作りや、その後会場を開放することで名刺交換や交流の機会を確保。

【参考】「私と福祉」知る、つながる、混ざり合う。福祉をひらくワークショップ 開催レポート

<https://note.com/watashitohukushi/n/nfb7e303e0b7b>

4. 事業の課題と次年度に向けての展望

地域で孤独・孤立対策を行っている支援機関の掘り起こしがまだ十分でなく、参加団体も多くなかったことが課題。市町村や社協などと地域の小さな支援機関の掘り起こしを行っていく。また、このワークショップに留まらず、更なる連携の機会やプラットフォーム構成団体の活動広報の場面を確保することが課題。「とっとり孤独・孤立サポーター」や地域の民生委員などにも声

かけし、活動報告の場面を後日設定するなど行ったところだが、プラットフォーム構成団体や個々人の活動の接続のためにも、活動を「見える化」していくことが次年度以降の事業に必要な視点と考えている。

⑤ 人材確保・育成のための研修

「とっとり孤独・孤立サポーター養成研修」

1. 事業の概要

深刻化する「社会的孤立」に対応するため、自らの地域において、孤独・孤立を深めている人を見守り、必要に応じて声をかけたり、孤立状態にありながら行政が把握していない人を見つけ出し、支援につなぎ、見守りを継続する「とっとり孤独・孤立サポーター」となる一般県民に向け、人材育成研修を実施。

2. 事業実施の経緯・背景及び目的

これまで「とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」による「生活困りごと相談窓口」の設置など、県民に分かりやすい孤独・孤立に係る相談体制を整備してきたところだが、地域の中で孤独・孤立を抱える方が自発的に支援につながることはまだ難しい状況にある。また、当事者等の抱える孤独・孤立に係る悩み等については、支援機関につながって解決することばかりではなく、当事者本人や支援機関からも孤独・孤立を抱える方への伴走支援を求める声があることから、県民による支え愛の仕組みとして、サポーター制度の創設を行うこととしたもの。

【参考】「とっとり孤独・孤立サポーター」の募集概要

<https://www.pref.tottori.lg.jp/318973.htm>

3. 事業の成果及び工夫した点

令和5年度から県が行っている孤独・孤立に係る人材育成研修をベースとし、サポーターとなる方に向けて、様々な困難を抱えた当事者、家族、地域資源等への理解を深め、関係者・支援機関と連携しながら支援を行う力量を高める養成研修を実施。

県内東・中・西部各1回・1.5日間の研修を実施し、36名のサポーターを養成。

4. 事業の課題と次年度に向けての展望

養成研修受講者が想定より少なく、今後より多くの方にサポーターとなっていただくために、来年度も養成研修を継続して実施することとしているが、改めて「とっとり孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」構成団体や市町村等に広報や周知を依頼し、サポーターの輪を広げていく必要がある。併せて、サポーターに任命した方については、市町村と名簿を共有しており、地域の活動などへの参画など、市町村とも協調し、サポーターとして活躍いただく具体的な場面を作っていく。